
花柄浴衣

コウコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

花柄浴衣

【Nコード】

N8966H

【作者名】

コウコ

【あらすじ】

誰のためでもない。あの人のために着る花柄浴衣。願うのはひとつだけ——隣を歩くことだけだったのに

あの人と手を繋ぐ権利は私にはない
知っているから見せ付けないで
二人の後姿を見れば分かる

この先でやってる 花火大会に行くんでしょう？
チリチリと焼けるこの胸と
今日の気温はどちらがアツイ？

紺の花柄浴衣を着て隣を歩く
願ったのはそれだけだったのになあ
夏の終わりの花火が光の尾を引いて散る
私の目が映す、あの人を想って見る景色はコレが最後
そう決めた そう、決めた

アノコに生まれたかった アノコになりたかった
恋をする子なら誰でも願う
無謀で切実な願い事

泣いて泣いてあの人が入るなら いくらでも泣く
それで花火が上がらなかったら
私の恋は終わらなくてすんだかな

紺の花柄浴衣を着て隣を歩く
願ったのが間違だったのかなあ
二人から背を向けて落ちた涙がひとつ
私の心を揺らす、あの人を想って流す涙はコレが最後

そう決めた　そう、決めた

片想いは楽しいと誰かが言った
それならこれはきつと片想いではないの
こんなにも苦しく　燃える様な熱さを
冷めることなく抱き続けているのだから

アノコがたやすく触れるあの指と
私の体温が混ざることはない
歩き出し目を瞑ったその束の間に降ってきた

あの声が私を呼ぶ　腕を取ってゆっくりと歩き出す
それは夢で　幻で

紺の花柄浴衣を着て隣を歩く
願ったのはそれだけだったのになあ
紺の花柄浴衣を着て隣を歩く
願ったのが間違いだったのかなあ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8966h/>

花柄浴衣

2010年10月28日00時43分発行